

コープ低公害車開発、CO₂排出13%削減のLPガストラック開発

2005/10/14 日刊工業新聞 Newsウェブ21 5ページ 309文字

コープ低公害車開発(横浜市港北区、小林勉社長、045・472・7913)は、伊藤忠エネクス、日気サービス(東京都板橋区)と組み、ガソリン車に比べ二酸化炭素(CO₂)排出量を13%削減した**LPガス**トラックを開発した。ガソリン車を**LPガス**車に改良したもので、06年初頭には商品化する計画。生活協同組合で導入を加速する方針。改造した小型トラックは「日産アトラス」をベースに、電子制御**LPG**気体噴射(インジェクション噴射)を搭載、燃料をガソリンから環境負荷が小さい**LPG**に切り替えることで、CO₂排出量を抑制する。

全国の生協では94年以降、低公害車への切り替えを進めており、現在までに5423台(転換率35%)を達成している。

The Nikkan Jidosha Shimbun

コープ低公害車開発
(小林勉社長、横浜市港北区)は、エンジンパワーの向上と排出ガスの低公害化を両立した先進型**LPG**(液化石油ガス)トラックを開発したと発表した。LPG用の電子制御気体燃料噴射を採用したことで、ガソリンエンジンと同等の出力、トルクを確保しながら、有害ガスを大幅に削減できるとしている。

資源エネルギー庁の助成を受け、先進型LPガストラックの実証調査にも取り組む。

新型トラックは、日産自動車(1・5t)をLPG仕様に改造した。燃料ガスを気体で噴射する最新インジェクションシステムを採用することで、性能を大幅に高めた。従来のガスマキサー(キャブレター)方式に比べ、出力、トルクのダウンがなく、ガソリン車よりCO₂排出量は13%、NO_xは48%低減できる。

また、先進型LPガストラックの実証調査は、日気サービス(野澤信吾社長、東京都板橋区)と

パワーと低公害両立 LPGトラック 先進型を開発

コープ低公害車開発

伊藤忠エネクスと共同で行う。

取り組み、同様の車両を計5台製造、新型車を導入した場合のCO₂削減シミュレーションなどを行う。



コープが開発した先進型LPGトラック

2005年10月4日(金) 日刊自動車新聞